

令和5年度 日本電子専門学校 第二回学校関係者評価 中間報告会報告書

評価対象期間 自：令和5年4月 1日
至：令和5年9月 30日

令和6年3月

学校関係者評価委員会

目 次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	
	1. 学校関係者評価の目的と基本方針	1
	2. 学校関係者評価委員名簿	2
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	4
	4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	5
II	学校関係者評価報告書の見方	6
III	学校関係者評価委員会 評価結果報告	
	総評	7
	令和5年度前期の取組（中間報告）に対する評価と意見	
	○学校の近況	8
	○NEXT10「日本電子専門学校さらなる伸張」	9
	○クリエイター・エンジニア教育の重点項目	12
	○総合評価	15
IV	学校関係者評価委員会議事録	17
	○全体自由意見	20

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ① 自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ② 生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和5年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

- ① 第1回目(7月)に実施する委員会は、令和4年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和5年度に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ② 第2回目(11月)に実施する委員会は、令和5年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、在学生に委嘱した。

属性	氏名	所属	役職
企業	鈴木 周祐	株式会社びえろ	人事総務部 リーダー
	井沢 祐	株式会社ファンコーポレーション	研究開発部 ディレクター
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	エグゼクティブ・ アドバイザー
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	社長室長
	渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社	セキュリティ技術部 総括部長
	伊藤 好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	篠原 たかこ	CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)	教育事業部 事業部長
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	西郷 直紀	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	理事・ 事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	人材交流委員会 委員
高校教員等	勝間田 清一		
	品田 健	聖徳学園中学・高等学校	学校改革本部長
	横田 えりか	株式会社ウィザス	教育運営部 教務 DX 支援室
日本語学校	会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部 副部長

卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	プロジェクトマネージャー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
ご家族・ 保証人	大和 宗良		
	高橋 美登里		
	岸本 美香		
地域住民	原田 識義	百人町西町会	会長
在校生	岡本 沙織	コンピュータグラフィックス研究科	3年生
	宮下 好葉	コンピュータグラフィックス科	2年生
	水山 颯香	ゲーム制作研究科	2年生
	森 碧大	電気工事技術科	2年生
	武藤 遼河	高度電気工学科	3年生 学生自治会 会長
	福田 るあ	コンピュータグラフィックス科	1年生
	渡邊 紗羽	コンピュータグラフィックス科	1年生
	江藤 海羽	ネットワークセキュリティ科	1年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和5年度第二回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：令和5年11月27日(月) 15:00から17:20

場所：日本電子専門学校 メディアホール

2) 学校関係者評価委員会実施方法

新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、対面及びオンライン会議システム(Zoom)を利用し、ハイブリッド運用にて実施した。

3) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡(スケジュール、事前配布資料確認) 15:00～

(2) 校長挨拶

(3) 出席者紹介(日本電子教職員、評価委員)

(4) 評価方法説明

(5) 議長(委員長)選出

(6) 学校関係者評価委員会開始 15:20～

令和5年度教育重点項目 前期実施報告

・学校の近況

・NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

1. 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

2. 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

3. 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

4. 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

・クリエイター教育/エンジニア教育の重点項目

・・・ 評価結果の判定(評価シート記入) ...

(7) 全体自由意見 16:40～

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、第二回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和5年度昼間（4/1～9/30）の自己点検を実施した。自己点検項目は令和5年度における「教育重点項目」3項目であった。

2) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、項目ごとに前期の取り組みが「十分」または、「不十分」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。



令和5年度 第二回学校関係者評価委員会
評価

yosuke@jec.ac.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

学校の近況

評価結果*

十分

不十分

コメント欄

回答を入力

戻る 次へ フォームをクリア

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 25 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「十分」記入数、「不十分」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が入力したコメントを項目毎にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

第二回目（11月）に実施する委員会は、「令和5年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う」ことになっており、この規定に従い、令和5年度日本電子専門学校第二回学校関係者評価委員会を令和5年11月27日に実施しました。

今回の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルスの感染の危険性がある密集を防ぐため、委員会開催方法を対面とオンラインでのハイブリッド運用で開催し、3つの「教育重点項目」について、中間報告を校長および副校長、教育部署長より行いました。

評価については、評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、ご父母、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生の参加委員26名が、それぞれの立場から、学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みが「十分」であったか「不十分」であったかを判断した結果が以下の通りです。

<教育重点項目に関する中間報告>

1. 令和5年度教育重点項目 前期実績報告 学校の近況（十分：25、不十分：0）
2. NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」（十分：25、不十分：0）
3. クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目（十分：24、不十分：1）

この評価結果は、日本電子専門学校学校の取り組みが委員に認められた証であり、多くの委員がコメントにもそのように記述しています。

また、学外コンテストや競技大会での受賞や学部団体からの表彰など、常に挑戦する教育を実践していることも、良い評価に繋がったと言えます。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願い致します。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長 篠原 たかこ

令和5年度 第二回学校関係者評価委員会

令和5年度教育重点項目 前期実績報告

・学校の近況

評価結果	十分：25 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 国際交流に関して力を入れられているのが明確に伝わる内容でした。留学生へのサポートがしっかりしているのは将来的な就業という意味でも心強いです。学生時代から曖昧だと苦労するので。ただ、アニメ分野についての活躍というのはあまりないようで、明確な競技大会などがないからかもしれません、少しさみしく感じました。(鈴木) ←十分
- ② 積極的に様々な取り組みをされていて素晴らしいと感じました。(井沢) ←十分
- ③ 様々な学部の学生たちのアワードへの参加、そして受賞、各業界との接点作り、留学生への対応など、多岐に渡る取り組みを実施されており十分に評価できると思います。(木下) ←十分
- ④ 生徒さんの数々の受賞おめでとうございます。毎年素晴らしい成績をおさめられており、日本電子専門学校レベルの高さを感じます。東京ゲームショーに28年連続出展も立派だと思います。また、国際色の豊かさコロナ以降戻って来ておりますね、留学生へのフォローの良さもわかりました。2026年～2030年の中期計画すでに取り組みされているとのこと、今後とも頑張ってください。(舟山) ←十分
- ⑤ 素晴らしい成果を聴かせて頂きました。今後も継続される事を期待しております。(相原) ←十分
- ⑥ 学校外での生徒の方が評価され、学校自体も視察、アワードなどで評価されており、素晴らしいと思います。先生方の熱量が伝わってきました。引き続きよろしくお願いします。(伊藤) ←十分
- ⑦ 精力的な姿勢が出ており素晴らしい内容だと感じました。(古川) ←十分
- ⑧ 権威ある方が訪問されたという事がいくつかあったが、具体的に何に興味があり貴学をご覧になって何を発言されたか等のエピソードを添えられると尚良いかと思いました。(小澤) ←十分
- ⑨ 学生生活は各種コンテストや競技会で優秀な成績をあげ、社会評価の高い学生を多く輩出している印象です。学校運営の観点からも報告があり、こうした報告は父兄には好評価なのではないかと思います。(米井) ←十分
- ⑩ 各種方面で、学生が活躍している。これも学校自身努力したものだと思います。(勝間田) ←十分
- ⑪ 視察やコンテスト、イベントと多くの成長の機会があり素晴らしいと感じました。(横田) ←十分
- ⑫ 様々な学科の学生が成果を上げ、色々な賞を受賞していること。著名人の方が視察に来訪されるということ。日本留学アワードの大賞、適正校(クラスI)認定。そ

れぞれ、御校の取り組みが実を結んでいらっしゃることを実感いたしました。(会田) ←十分

- ⑬ 各学生達の活躍がたのもしく感じている。学校も役所や国際的に評価が高く感じた。(原田) ←十分
- ⑭ 学生たちの活躍は非常に輝かしく、嬉しいものですね。(大山) ←十分
- ⑮ 簡潔に状況をまとめて述べていただきわかりやすく、かつとても良い方向に向かっていると感じました。(岡本) ←十分
- ⑯ スポーツフェスティバルや日専祭の実施は、新型コロナウイルスの影響で多くの経験が失われてしまった学生たちにとって非常に貴重な経験となりました。またユニフォームや HP の作成を学生が担うのは学チカ作りに大きく役立つと感じました。(水山) ←十分
- ⑰ コロナ禍を乗り越えた学生の頑張りが反映されており、良い報告だと感じました。ただ在校生でも知らなかったことが多かったので、もっと学校内に向けて宣伝しても良いと思います。(森) ←十分
- ⑱ 多くの学生のコンテストなどでの受賞。留学生に向けた手厚いサポート等、今後も続けていただきたい内容であった。(武藤) ←十分
- ⑲ 学生の活動も学校側での活動も、大会での賞や他国との関わりをもつ会合など多くの事を成し遂げており、素晴らしいと感じた。多方面からの多数の評価がこれからの日本電子を創り上げていくための大きな糧となると思います。(福田) ←十分
- ⑳ 学校内外での学生の活躍が想像以上に凄いものだった。自分の周りには賞に応募をしたり、外交活動をしているような在校生はいないので、他学科の在校生や学校全体の活動を見て、自分がこの学校にいることに誇りと憧れを感じた。特に広告の入賞、東京ゲームショウの出展は日本電子専門学校の名前を広げられるいい機会だと思う、実際にゲームショウで先輩方の作品を試遊させていただいた際には、ゲームを作るまでの話や何をどのように作った、など実体験も聞かせて頂けて良い機会だった。(渡邊) ←十分
- ㉑ 日本だけでなく他国との交流が行われている点や、日専祭やコロナ禍のためできなかったスポフェスなどイベントが行われている点が良かったと思う。また、学生においても華々しい成果があげているため、さらにこれからは期待できると感じた。(江藤) ←十分

・NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

評価結果	十分：25	不十分：0
	100%	無回答：0

コメント欄

- ① 1.PROG については、2年目の成果が楽しみです。
- 2.学生自治会はとてもうまく運用できているようです。ただ、このようなアプローチだと、意欲のある学生以外をどのように底上げしていくのか、その点を学生自治会がどのように頑張れるのかが肝かなと思います。

- 3.新設学科開発フレームについては、見直しを含めという視点があり、積極評価できます。新設アイデアが少ない分、附帯教育アイデアが5件ということですので、十分健全かなと感じました。通年通して、先生方からの活発な提案が学科の活性化に繋がるような気がします。
- 4.遠隔授業の標準化は、このご時世避けられないと思いますが、対面アプローチの欠如で失うものがないよう配慮を望みます。(鈴木) ←十分
- ② ずっとやられてきたことが良い結果に結びつくことをお祈りします。そして次のNEXT10に向けても期待しております。(井沢) ←十分
- ③ 各分野の取り組みに関して、先端技術への対応であったり、強調されていた「学生を主体とした」活動への取り組みなど大変に尽力されておられると感じています。引き続き最終成果へと繋がることを期待しています。(木下) ←十分
- ④ 更なる伸張をめざしていることが良くわかりました。情報処理科での「ディプロマサプリメント」は単なる成績表と違い何が出来るようになったのかを可視化され非常に分かりやすいです。また、産業界のニーズに基づいた基本的・汎用的能力の養成プロジェクトは「PROG」を活用してコンピテンシーの向上具合などが見える化できる点も大変興味深く感じました。同時に学生自治会の適正運用、学生主体の学校行事の在り方の検討など学生主体の視点で運営されていることが理解できました。また、新設学科開発フレームを活用した学科の新設や附帯教育開発では、お仕着せではなく公募でアイデアを募る点が大変良いと思われま。同時に既存学科の見直しもしっかり行われている点や、遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用においても、昨今問題となっている、生成系AIの利用に関する留意事項などの整理が進んでいることが理解できました。(舟山) ←十分
- ⑤ 今後は、知識と共に社会人としてのスキルは重要だと考えます。その点では1項目においてジェネリックスキルなどの可視化は有効と考えます。また、4項目の生成AIの利活用についても、進めるべきと考えます。(相原) ←十分
- ⑥ 常に学科の見直し、授業の質向上のために考えられていることが分かり、素晴らしく思います。また、勉強だけではなく、イベントや自治会含めて交流できるようになったとのことで、引き続き盛り上げていただければと思います。(伊藤) ←十分
- ⑦ 充実した内容だと感じました。PROGは、就職活動時にアピール材料になると感じました。(古川) ←十分
- ⑧ 各部門の詳細がよく説明されていたかと思えます。他校の学校評価委員会にも出席経験がございますが、ここまで教員・学生が一体となって今後の学校教育体制について検討されている学校は他にない特徴だと感じました。引き続き良い教育をしていくための検討を継続的に続けていただければと思います。(小澤) ←十分
- ⑨ 教育の質の保証・向上に向けての取組は大変興味を持ちました。企業の評価を得られるかがこの仕組みが定着するかの重要ポイントになるように思いました。キャリア教育の充実は学生の自発的な活動について詳しく理解できました。「キャリア教育」という言葉は学生全体に行う実践的な教育のイメージがあるので、次期事業計画では、何か違う呼び方を検討しても良いかもしれません。遠隔授業の標準化については具体性があり、後期の取組に期待したいと思えます。(米井) ←十分

- ⑩ 成績の評価の詳細、コメントをすることは学生の次の学習の目安となり有効である。実践教育の場であるので新しい技術が出た場合それに沿った学科は他校より早めに新設が必要だろう。マイナーなところは統廃合する。オンライン授業は続ける必要があると思います。(勝間田) ←十分
- ⑪ テクノロジーの進化に合わせて、学科、学科の内容など見直しをしたり、新しくするのは非常に大変な作業であると思います。新設学科開発の中で、既存のものを見直す、以前のアイディアも含めて検討しているとありましたが、今あるものを時代や学生の変化に合わせてブラッシュアップしていくことで、より充実した内容になるのではないかと考えます。(会田) ←十分
- ⑫ 学生の能力を総合的(技術面だけでなく)に向上をはかる施策が進められている。(谷) ←十分
- ⑬ 学生の自治の充実など進んでいると思う。学科の統廃合など更なる発展が見込める。先端テクノロジーについては、これから色々やっていくと思う。(原田) ←十分
- ⑭ 将来を見据えて確実な体制を維持している様子が伺えて非常に心強く感じました。(大山) ←十分
- ⑮ 自身の能力がグラフ化されることで自分の得意なこと、苦手なことがわかりやすいと感じた。
 クラス委員会の定例会の復活によって、部活や同好会が新型コロナが落ち着いてきた今、色々な人に知っていただける良い機会になっていると感じています。学生自治会や部活、同好会、クラス委員など就活の学チカで使用できるような機会を学校側が多く作っていただき、学生は非常に助かっております。新設学科開発フレーム分科会について一般公募という形で教える立場である、先生方がより良い教育を行うために新学科を設立できるという仕組みは今後の学校の発展に良い影響を与えていると感じました。またそういった積極的な先生方がいらっしゃるというのが改めて良い環境で学ばせていただいているという実感に繋がりました。(水山) ←十分
- ⑯ ディプロマサプレメントについて、学修成果の可視化を行って生徒の能力がわかりやすくなるのは良いと思います。得意分野と苦手分野など、可視化できる部分が多くなるとさらに便利だと思います。また新設学科の検討についてですが、校内の教職員だけでなく、もっと色々な方にアンケートを取るべきだと思います。例えば、繋がりのある企業の方や連携している高等学校などです。その結果を新設学科の検討に役立てつつ、教育の質の向上にも役立てて欲しいです。(森) ←十分
- ⑰ 社会人基礎力向上への取り組み。教員の負荷を軽減し、学生と向き合う時間を増やす。この2点は、学生にとって大きなものですので、今後も良くなるように進めていただければと思います。(武藤) ←十分
- ⑱ 1.他の学生と細かく比べることもそうですが、ディプロマサプレメントの運用は学生にとっても自分に何が足りていないのかよく理解できるので良いと思った。
 2.学生自治会が積極的に学校のために活動しておりとても良いと感じた。積極的な活動もそうですが、他にも交流会の開催など学生たちの新たな出会いの場になっ

ていて色々な活動の輪が広がっていくためにはとても良いことだと思いました。
 3.新設学科がどのようにして出来ているのか知らなかったが、一つ一つ段階を踏み検討をして決めていると知れて、しっかりと競技を重ねているのだなと感じた。また叶わなかった事でも再検討を繰り返しているのはとても良いことだと思った。
 4.オンライン授業による、アプリ環境の整理をきちんと考えており良かった。昨今問題が起きつつある、AIについての事もきちんと明記してあり対策をしてあるのが関心を持てた。現代で成長しているテクノロジーを進んで取り入れていこうという精神が良いと思った。ですが、リスクもあると思うのでその確認が要検討だと思う所もあった。(福田) ←十分

①9 学生の更なる成績向上に向けて様々な取り組みが行われていることを知れた、新学科の設立への取り組みは学校だけでなく、一般の方からも応募し採用していることや、ほかの学校の生徒と比べることで学生に何が足りないか分かりやすくなったと思う。特に成績の変動をデータチャートで分かりやすく可視化することは、学生だけではなく教員にとっても個人の得意不得意が理解しやすいと思う。
 (渡邊) ←十分

②0 学習成果や学習効率などは円グラフにより見える化を行うことは学生にとってもすごくプラスになると感じた。またそのフィードバックも今後期待していきたいと思う。自治会などの活動は、実際に参加した学生から、結構学生中心で進めているとの声があったため、目的に沿っているのではと思う。ただ、活動内容がわからないから参加するのを躊躇っているとの声もあるため、その点がより知れ渡ると良いのではと思う。既存学科の見直しについては、学生の意見も取り入れて、実際にこうしたらもっと良くなるなどのアンケートをとるのも良いのかなと思う。
 (江藤) ←十分

・クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目

評価結果	十分：24 96%	不十分：1 無回答：0
------	--------------	----------------

コメント欄

- ① ドロップアウト対策ということですが、適切に現状分析と対策を検討されていると感じました。リモート企業における退職率の低下というデータもあるようなのでこのあたりも含めて考えても面白いかもしれません。ちなみに、弊社はリモートワークを認めていませんが、専門学校故に、将来の職業選択と密接に関わるので、一定程度は致し方ない気もしますが、極力残念な事にならないのが良いですね。
 (鈴木) ←十分
- ② ドロップアウトについては数字的、評価的には低いに越したことが無いと思いますが、内容によっては(学生本人にとっては)前向きなものもあるかもしれません。数字にとらわれ過ぎずに正確な事実が捉えられると良いなと感じました。
 (井沢) ←十分
- ③ 教育重点項目として、ドロップアウト対策の強化を挙げている理由、を包み隠さず

明確に提示し、問題として捉えていること、真の問題に取り組み対策に向かう姿がむしろ信頼がおけると思います。(舟山) ←十分

- ④ ドロップアウトの問題はどの組織でも問題になっていると思います。発表の通り、担任の先生に任せるのではなく、学校全体として取り組む事が必要であると考えます。(相原) ←十分
- ⑤ ドロップアウトは個別の理由があり、時間の掛かるものでありますが、ご苦労されると思われますが、引き続きよろしく願いいたします。(伊藤) ←十分
- ⑥ ドロップアウトに対策する事は、学生の将来に有益だと感じます。企業では職種別採用が見直されており、そのような考え方が参考になるかもしれません。(古川) ←十分
- ⑦ DO率の要因を具体的に触れたご発表があると良いと思いました。また、その属性(留学生?通信高校出身?学歴差?基本的能力?資質?)などによる分析を行う事と、実際この2・3年で何故DO率が増えているのか、原因を探ることがよろしいかと思います。入学時のイメージが違うという事は本当によくあることだと思います。入学させるために良いイメージで伝えるかと思うのですが、やはり学ぶことは大変なことも多いですし、無理に入学させたとして中々難しい面も大きい。日本電子さんは、日本国内で見てもトップレベルの専門学校なので、ある意味「いい学生を選ぶ」くらいの姿勢で入学者のフィルタリングを行うという事も重要ではないかなと思いました。(小澤) ←十分
- ⑧ 一定数の退学者がいるのは正常だと思います。退学者ゼロを目指すことは必要ですが、学生が抱える背景が違うので全てに対応するのは難しいということも理解できました。教育に関わる部分での退学者低減対策に期待したいと思います。(米井) ←十分
- ⑨ 留学生もいて、ドロップアウト対策色々大変でしょうが頑張ってください。ドロップアウト率がさがるといいですね。(勝間田) ←十分
- ⑩ 通信制高校出身の生徒は今後も増えると思われれます。通信制と一言で言っても、毎日登校する習慣のある生徒もいれば完全にオンラインの生徒もあり、個々の状況把握も大切なポイントになると思います。何卒よろしく願いします。(横田) ←不十分
- ⑪ ドロップアウトをする学生には、精神的な理由も増えているのではないかと推測します。情報共有をした上で、必要な時には早めに対面で、1対1で話すことで、改善につながることもあるかと思います。個別対応は時間がかかることではありますが、学生さんにとっては相談できる相手がいると認識するだけでも、安心できるかもしれません。(会田) ←十分
- ⑫ ドロップアウト対策において一人ひとりの事情に学校全体で取り組んでいこうとする姿勢が見えた。(谷) ←十分
- ⑬ ドロップアウト対策においても色々取り組んでいるのを感じた。(原田) ←十分
- ⑭ フォローに関して報告にありましたように学生たちの個々のバックグラウンドや問題に対応しなければならないことについては限界があると思います。これについてはリカバリープランを限界内で策定して実施するほかないと思います。お疲

れさまざまです。(大山) ←十分

- ⑮ OC、体験入学のスタッフをさせていただく中で、自分の将来なりたいものが明確になっていない状態で専門学校ของเกม分野への進学を考えている学生の方が多く見られます。よくわからないまま入学してしまうと実際に学んでみてからのギャップ、理想との差がドロップアウトに繋がっていると話を聞いて改めて感じました。また広報部の方との情報交換を通じて感じたのは、今年度は前年度と比べ、高校3年生の参加率が夏頃よりも1年の後半に集中しているということです。その中でも早く進路を決めなければいけないという焦りから勢いで学校を決めてしまうという背景が見えてきます。対策でもあげられていましたが「募集イベント」の内容の強化が大切だと感じました。(水山) ←十分

- ⑯ ドロップアウトする学生の話を見ると、分からないことを教員に聞くことが出来ない状態にある。又、アルバイト等で生活費を稼がないといけない場合に、課題の量が多すぎて生活ができなくなるため、苦渋の選択として退学を選んでいる。と聞くことが多くあります。学科によって、課題の量にバラツキがあるのは仕方の無いことだか、学生の心の声をきちんと聞いて、課題の設定をすることがドロップアウト軽減に繋がると思う。また、入学時に学科の先輩の生の声を聞く時間、実際の授業風景の動画等、嘘偽りなく公開することもドロップアウト軽減に繋がると思う。キャリアセンターの教員の中でも業務にバラツキがあるのが生徒から見ても分かる。そのため、仕事の割り振りや、業務の見直しの時間が必要になってくると思う。仕事をきちんと割り振る事で、生徒との時間も取れるかも思います。

(武藤) ←十分

- ⑰ 中々改善が難しい問題だと思いますが、対策を練らないとパーセンテージは増加するばかりではないかと思います。入学時にすぐ躓いてそのままズルズルとそれが続き退学に繋がる事が私の周りには多い気がしました。中々自分から言い出せない環境もあると思うのでそのサポートをしていくべきではないかと感じています。また、クラス内での関わりが中々少なく友人の繋がりというの少ない気がしています。そこでの関わりのきっかけになるような何かをもう少し多く作ることが出来れば何か変わるのではないかと思います。(福田) ←不十分

- ⑱ 友人が学費を自分で払っていて、いつも大変そうな様子を近くで見ているので、そういう生徒や学校生活を苦に感じて辞めてしまう生徒を少しでも減らしていけたら、学校も生徒もより良くなると思う。奨学金制度や、学校内での対人関係も見直すべきだと思う。(渡邊) ←十分

- ⑲ ドロップアウトについては学科ごとの分析、改善の必要があると感じた。またオープンキャンパスと実際の学校生活とのイメージの差異があるとの声は実際に耳にしているため、早急に解決しなければいけない案件であると思う。熟練度に合わせてクラスを変えることはお互いのスキルアップにもつながると思うが、あまり勉強ができない人のフィードバックについてもより検討する必要があると感じた。相談できる場所を作るほかに、入学して最初に気の許せる友人を作るための時間があっても良いと思う。(江藤) ←十分

・総合評価【学校の改善に資するご意見】

評価結果

コメント欄

- ① 中長期でしっかり検討いただいているようなので、引き続き改善に努めていただければ、問題ないと思います。(鈴木)
- ② この会でお伺いしている学校の方針、取り組みは素晴らしいものだと感じます。ただこれらの方針を具体的なアクションで実践していく先生方（この会に参加されていない先生が大半になると思います）、そしてその先にいる学生さんまで届かないと意味が無いものになってしまいますので、その部分に温度差が生まれないようにすること（実態調査、ヒアリング、対策等）も重要になると感じました。(井沢)
- ③ 特にマイナスとなるような気になる点はありませんでした。(木下)
- ④ ドロップアウトの問題は学校で解決できる部分と、生徒さん側でしか解決できない部分があるので、0%は難しいと思いますが、ベストにならなくてもよりベストに近いベターを目指そうとする姿勢は大変素晴らしいと思います。今後も誠実な運営を期待しております。(舟山)
- ⑤ このような会を通して継続的に改善を検討されていることは評価出来ると考えております。(相原)
- ⑥ 丁寧にご説明くださりありがとうございました。引き続き熱量のある学生の方々のご活躍を期待しています。(伊藤)
- ⑦ 企業が抱える課題と似ている部分があり勉強になりました。ディスカッションする場が大切だと思いました。(古川)
- ⑧ 専門学校に助成が無いというお話でしたが、この文科省の認定を受けると、東京都から助成金はありますか？（他校ではひとり 5000 円/年の助成があるという実績があると伺っていました。）ひとりずつ意見を発言いただくのは中々時間がかかりますね。アンケートでもデジタルで回答しておりますし、時間もオーバーしてしまっていたので、任意発言およびそれに対する回答を逐次行っただくのも良いかと思いました。(小澤)
- ⑨ いつも詳細にご報告いただきありがとうございます。今年度の取組について理解することができました。多くの取組がありましたので先生方に必要以上の負荷がないような配慮がなされていることを希望します。(米井)
- ⑩ 学校側、いろいろな面で努力しています。良い結果が出ることを期待しています。(勝間田)
- ⑪ 今後、留学生の受け入れを増やし、合格後の日本語力向上にも力を入れられるとうかがいました。今まで貴校に送った学生の中には、N1 を取得済で比較的会話力があっても、貴校の授業についていき、友人や先生方とコミュニケーションを取るのには非常に苦心すると聞いたことがあります。ですので、授業についていける日本語力、コミュニケーション力があるかどうかを面接（選考）の際によく見極めていただければと思います。現状、丁寧に選考していただいておりますが、ドロップアウト

トを避けるためにも、今後ともミスマッチや無理のない選考結果を出していただけるとありがたいです。(会田)

- ⑫ 地域と共に益々発展を願っています。(原田)
- ⑬ 相変わらずの精力的な姿勢に感服しています。(大山)
- ⑭ 改善してほしいことは、とくにはありません。改善、取り組みが引き続き、継続していただければと思います。(高橋)
- ⑮ 私からは、可視化される反面のメンタルケアをととても強くお願いしたいです。ドロップアウトのケアと職員の仕事量が増えてしまい難しい部分だとは思いますが、専門的なことを学んでいる学生からだとその少しのケアがとても心に余裕が生まれます。よろしくお願い致します。(岡本)
- ⑯ クラスメイトから意見を募り 3 点の意見が多く寄せられました。
 - 1 点目は学校の自販機の値段についてです。自販機の値段が高く、飲み物はコンビニで買ったほうが安いと感じる人が多くいました。
 - 2 点目は小さな悩みですが 4 名から意見があがりました。学校 HP の AI チャットボックスが一度誤って開いてしまうと画面の大半を覆い隠し、閉じることも困難ということで非常に使いづらいという意見があがりました。
 - 3 点目は喫煙者についてです。休憩時間に喫煙所でタバコを吸ったあと、授業が始まると教室中がタバコの臭いで充満しており、非常に苦しいという声があがりました。禁煙にするべきというわけではないですが臭いのケアといった部分に注意をしていただけると非喫煙者も過ごしやすい環境になると感じます。(水山)
- ⑰ 前項目等で述べておりますので、こちらには特に記載事項はございません。本日はありがとうございました。(武藤)

IV 令和5年度第二回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和11月27日（月） 15：00～17：20

場 所：日本電子専門学校 メディアホール

学校関係者評価委員：

名 前	所 属（役 職）	区 分
鈴木 周祐	株式会社びえろ（人事総務部リーダー）	企 業
井沢 祐	株式会社ファンコーポレーション （研究開発部 ディレクター）	
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー （エグゼクティブ・アドバイザー）	
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン（社長室長）	
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研（代表社員）	
相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社 （代表取締役）	
伊藤 好宏	JTP 株式会社（技官）	
篠原 たかこ	CG-ARTS（教育事業部 事業部長）	職能団体
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 （交流推進本部 人材交流委員会 委員）	
勝間田 清一	元高等学校教員	高校教員等
横田 えりか	株式会社ウィザス（教育運営部 教務 DX 支援室）	
会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校（教務部 副部長）	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト （プロジェクトマネージャー）	卒業生
原田 議義	百人町西町会（会長）	地域住民
大山 宗良		保護者

高橋 美登里		保護者
岸本 美香		保護者
岡本 沙織	コンピュータグラフィックス研究科 (3年)	在校生
宮下 好葉	コンピュータグラフィックス科 (2年)	
水山 颯花	ゲーム企画科 (2年)	
森 碧人	電気工事技術科 (2年)	
武藤 遼河	学生自治会代表 高度電気工学科 (3年)	
福田 るあ	コンピュータグラフィックス科 (1年)	
渡邊 紗羽	コンピュータグラフィックス科 (1年)	
江藤 海羽	ネットワークセキュリティ科 (1年)	

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
船山 世界	校長
杉浦 敦司	副校長
五十嵐 淳之	クリエイター教育 部長
大川 晃一	エンジニア教育 部長
井上 直樹	キャリアセンター センター長
高橋 陽介	学事部 部長

進行：

- | | | |
|-------|-----------------------------------|----------|
| 15:00 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 五十嵐 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 船山 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 五十嵐 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 五十嵐 |
| 15:20 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（篠原委員） |
| | 6. 令和5年度 教育重点項目 前期実績報告 | |
| | 学校の近況報告 | 船山 |
| | 新設学科設立 DX スペシャリスト科 | 船山 |
| | 第三者評価（2022-2026）の受審 | 船山 |
| | NEXT10「日本電子専門学校の更なる伸張」 | |
| | (1)「建学の精神」の実現に向けた
「教育の質の保証・向上」 | 杉浦 |
| | (2)学生主導で社会人基礎力を養う
キャリア教育の充実 | 井上 |
| | (3)新設学科開発フレームを活用した調査・検討 | 五十嵐 |
| | (4)遠隔授業の標準化・質保証と
先端テクノロジーの利活用 | 大川 |
| | クリエイター教育とエンジニア教育の重点項目 | 大川 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 16:40 | 7. 意見交換 | |
| 17:20 | 8. 終了 | |

1. 全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【(企業／ゲーム) 株式会社ファンコーポレーション 井沢様】

今回は中間ということでやっていらっしゃることをいろいろと伺い、相変わらず丁寧にして積極的にいろいろ取り込まれているということを改めて実感いたしました。素晴らしいなと感じておりました。引き続きやっていただければと思います。

【(企業／デザイン) 株式会社ジェイスリー 木下様】

私の耳に残っているのは、取り組まれていることに対して学生主体であることです。この先を見越した様々な課題への取り組みと新しい需要への内容を書かれていることについてはすごく良い取り組みを継続されていて、今後最終的な成果への繋ぎとしてとても評価できる内容だと感じて聞いておりました。引き続きご尽力いただければと思います。

【(企業／電気) 株式会社横浜環境デザイン 舟山様】

毎回思うのですが、問題意識を包み隠さず悪いこともきちんと皆さんに提示した上で、このような解決方法を考えましたという姿勢は、企業でもなかなかできないことで、大変素晴らしいことだと思っております。今回特に我々中小企業がチャット GPT をどういうプロンプトを使ってやっていくのかは議論になっている部分がありますので、留意事項のようなものがもしできたら一度見せていただければありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【(企業／情報) 合同会社ワタナベ技研 渡邊様】

いろいろな改善のところは色々やっていただいて素晴らしいなと思っておりますが、新しく作った DX スペシャリスト科の情報発信の仕方を考えないと、「実際 IT を知らない人たちに対しての情報発信」と我々のような「IT を本業としている人に対しての情報発信」にはかなりギャップがありそうです。カリキュラムを拝見いたしました。そこをうまく埋めていかないと、どんな人材を育ててどんなふうに関社会に貢献していくかという点が見えないと個人的に思っております。そういったところ今後ご検討いただきながらやっていただけたらと思っております。例えば、具体的にホームページの方で「漫画で解説 DX スペシャリスト科」というものがありますが、アルバイトの学生さんがファミレスのところで改善提案していくようなストーリーになっています。現実を知っている人から見るとありえないと思ってしまうところがありますので、ミスリードにならないように考えていただきながら進めていただければと思っております。

【(職能団体／電子) 一般社団法人組込みシステム技術協会 株式会社インフォテック・サーブ 米井様】

今回も詳しく内容がよく分かりました。企業でも面倒でやりたくないような手間と時間のかかるものにもきちんと向き合っていて、学生のために一生懸命やられているところが非常に印象に残っています。是非良い方向で結果が出ることを期待したいと思います。

【(高校教員等) 株式会社ウィザス 横田様】

私ども通信生高校をやっている、やはりドロップアウトのお話であった登校に慣れている生徒もいれば慣れていない生徒も、その後進学した時にどうなのかというのは私たちが日々考えているところであります。これからも引き続きよろしく願いいたします。

【(在学生) 岡本様】

私からは初めにありました「学習成果の可視化」についてのお話になります。自分の能力が可視化できることでモチベーションや、やる気につながるの、個人的にはとてもいいと思いました。ただし、可視化されたことによって自尊心の低下や、やる気の低下につながってしまう人もいますので、同時にメンタルケアや個別面談などの強化もしていただけたらと思います。

【(企業／アニメ) 株式会社ぴえろ 鈴木様】

皆さんからお話いただいたようにすごく健全に検討されていて、いろいろな課題も明確に分析されており私も大変良い方向の意見がいっぱい出ていて良いなと感じておりました。また、今の学生の意見や自治会の方も含めて本当に皆さん適切な意見だと思います。私もふと思ったことがあります、自分の会社でもどういう風に社員のモチベーションや評価、人事効果を伝えていくかというのが可視化される反面、一気にやる気をなくしてしまう社員がいるのでそういう点が課題だなと思い、まさに同じようなことを学生がおっしゃられているのがすごく良いなと思いました。自治会で社会人としてのスキルを上げていくというのが本当に可能なのかという疑問はありましたが、聞いていると期待を持てるような意見でとても良かったと思います。ありがとうございます。

【(企業／ネットワーク) ストーンビートセキュリティ株式会社 相原様】

全体的にお話聞かせていただき、最初にご説明があった学生が成果を上げているといったところが非常に共感を持てるところで楽しみだと思っておりました。また、「知識の可視化」「成績の可視化」といったところでは、社会人としてのスキルは是非若いうちに身につけていただければと思っております。最後にお話がありましたドロップアウトの対策になりますが、これはコロナの後遺症でどの組織においても、我々企業においても大きな問題になっていると思っておりますので、先生にとっては大変かも

しませんが、学校をあげて対策を取り組んでいただくとよろしいのではないかと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【(企業/AI・モバイル) JTP 株式会社 伊藤様】

私からは冒頭でご説明いただいた近況の部分で、やはり学生自身がグラフィックやネットワークセキュリティで表彰されたということ、学生自身が世に出ていって活躍されている、それを支えるのは、やはり先生の熱量がないとなかなかそこまで自発的にすることは難しいと思いますのでそういったところが評価されていると思いました。また、いくつも視察が入っていたという点ですが、これも学校自体が評価されているところが成果として出ているのではないかなと思います。素晴らしいと思いましたので、引き続きお願いしたいと思います。ただ一方で、ドロップアウトについては難しいと思います。どうしてもそういった方々が出てしまうところをご報告いただいたと思います。個別対応でケアしていくことがメインだと思います。大変だと思いますが引き続きお願いしたいと思います。

【(高校教員等) 勝間田様】

学校側の細かい説明いただきまして、よくここまでというような感じがいたしました。自分も学校関係ですから「このような方面をいろいろ検討しておけばもっといい格好になった」という反省のようなことを思いながら聞かせていただきました。最初に説明がありました生徒への評価ですが、成績表から更に細かい説明をしてあげるといようなことは自分のところではやっておりませんので、このようなことは生徒の励みや次の学習に向けて良いことだと思います。これはいつからやっているのでしょうか、もう始めているのでしょうか、あるいはこれはいつ配布するのでしょうか、というようなことも質問してみたいと思いました。それから、実践教育の場なので新しい技術や新しいニーズができたなら新しい学科というのは、他の学校より早く立ち上げ、そして生徒たちのニーズに対して取り込んでいくことも必要ではないかと思います。オンライン授業も続けた方が良くと思います。様々な学生の事情があると思いますが、自宅でも学校でもあるいはより広い場でできるのではないかと、学校はオンライン授業する場合にどこで行っているか確認はしているのでしょうか。そういうことを考えたら日本でやらなくてもどこでも良いかというようなことも考えたりしました。

【(卒業生) 谷様】

1 点ドロップアウト対策の点で気になったことは、入学が良いと思う人のプロモーションのところで学生との認識の差異が原因にあったのではないかと想定をされていたと思います。そういうのもあったと思います。あと新学科の開発フレームワークの中で「募集力」というキーワードが使われていた点が頭に残っていました。何が言いたいかという新学科を作り、学生に入学してもらうということは間違いなく重要なところで、入学しないと学校が回らないのでどうしようもないことではあります、実際にドロップアウトというのもまた困るところが非常に難しいのかなと思っています。ただ、バランスが大事なのかと思ってまして、例えばドロップアウト率

が数パーセントという数字でしたが、学生の数が 1000 人以上いますので数パーセントって言うと相当な数になります。ドロップアウトしている人の数だと思うので、それがドロップアウトしそうな人や学校に相談している人も含めるともっと多いと思います。その人たち一人一人に個別対応を進めているという話でしたので、学校全体で取り組む必要があるという思いを持っていると思いますが、実際その数を減らすことは難しいと思いました。バランスを考えましょう。話がまとまっておらず、申し訳ございません。

【(地域) 原田様】

細かい説明をいろいろと報告いただいて大変参考になったと思います。今の学生や先生方は大変だと実感しております。僕らの学生時代にはこんなに細かい授業内容はなかったので、今の学生も先生も本当に大変だと思っております。地元の町会としては、日本電子専門学校と一緒に発展しておりますので、ますますこれ以上発展していることを願っております。

【(父母等) 大山様】

こちらの立場というのは子供が学校に通って勉強させていただき、2 年間勉強して自分が望んでいる就職先へ出ていく。その間、学校と付き合うことになりますので、NEXT10 のように「今まではこうだった」「これからこうだった」という非常に緻密なビジョンの中で取り組んでおられるっていうことを聞いてとにかくすごいと思うしかありません。ただ、私の子供と学校はその中の 2 年だけの付き合いですので、親として見ている分には後先こうやって展開していくことは頑張ってくれと思いますが、その上でどうなのだろうと考えます。子供にとって学校ってなんだろうって考えると、もちろん緻密で高度で実践的な教育を受けられるということは役に立つことではありますが、ドロップアウト率に反映してくるところでもありますが、非常に緻密で高度なことを追求すればするほど落ちこぼれてしまう子供もできます。ですからどんなに緻密な網を用意しても防ぐことはできず、これは社会全体の問題もそうですから、限界を見定めてリカバリープランになるものを学校として用意してあとは本人たちに任せる、社会に任せるような形になるしかないだろうと思います。私はそれでいいと思いますが、子供たちもここでドロップアウトしたから自分の人生投げってしまうかというところではない場合もあります。「前見て走れ」と言っているのに横見て走ってしまう子もいます。私自身がそうでしたので自分の子供に対して何も言えません。学校でうまくやっているかと言うと「まあまあ」と言われ。「あとはお前が勝手に社会でぶつかってこい」のように。自分がひどいぶつかり方をして人生を過ごしてきたので、優等生のように着実に歩めとは一切言えません。ドロップアウトする子供たちの気持ちもわかります。本人たちの資質の問題もありますが、家庭の環境や社会の環境の問題もあるのでこればかりは学校で何をできるかというところですが、絶望的に考えなくても良いと思います。ただ背中を押してあげる等、最後のリカバリープランで頑張ればよいと思います。とにかく日本電子専門学校は学校としては多機能によく取り組んでおられると思います。これはもう本当に隙がないぐらい取り組んでおられるので、

私は2年間子供が通わせてもらいありがたく、嬉しく思っています。来年の3月までに子供が卒業できるようにと思っています。

【(父母等) 高橋様】

学校のことは子供から聞いていることもあるのですが、細かいことをいろいろ取り組んでいただいていることがわかりました。このまま引き続きよろしく願いいたします。

【(父母等) 岸本様】

親は子供からの学校の様子ぐらいで、実際学校がどうなのか、日本電子専門学校が子供たちのことを考えてこんなに細かいことを、一生懸命になってくださっていることは、なかなか子供からは伝わらないことなので、今日は非常にいい機会でした。お話が聞けて子供を安心して学校に行かせることができると親としては感じました。親が一番気になるのはドロップアウト問題なのですが、ここは親も子供の様子を見ていかなければいけないと思いますし、専門学校での担任の先生と子供の距離感が私はまだよくわかっておらず、高校までのことを考えると非常に先生との距離が近い気がします。日本電子専門学校だと実際に担任の先生との距離はどのなのだろうと疑問に思いました。大変だと思いますが、子供一人一人これからも引き続き見ていただけると助かります。

【(在学生) 宮下様】

第1回の評価委員で私も他の方々も挙げられていたドロップアウト対策について、迅速な対応していただけているということについて、学校側が学生に真摯に向き合っているということがわかりました。私が所属しているコンピューターグラフィックス科はクラスが5クラスあり、生徒数が他の学科と比べると多いと思います。コンピューターグラフィックス科は生徒が多いため担任の先生や教員などの距離感も少し遠くなりがちで、教員だけでフォローするのがなかなか難しいのではないかと、私がいつも生活している上でそのように見えています。ですので、教員だけでというのはかなり厳しいと思いますので、教員側のフォローも手厚くしているのであれば教えていただきたいです。あまり手厚くしなければ、今後検討していただけたらと思います。引き続き対応していただき改善されていくことを祈っております。

【(在学生) 水山様】

クラス委員の定例会の復活について非常に嬉しく感じております。先ほどから何回かお話しにあがっていますドロップアウト率について私もお話しさせていただきます。私自身オープンキャンパスや体験入学のスタッフをやる中で、入学検討者の方々とお話をしていくと自分の将来になりたいものが明確に決まっていない状態で専門学校へ進学を考えている学生が多く見られました。よくわからないまま入学してしまうと先ほどお話にあったように、実際に学んでみたらギャップや学校への理想との差が原因でドロップアウトにつながっているのかとお話を聞いて改めて感じました。また、

広報部の方と情報交換を通じて今年は前年度と比べて高校3年生の方の参加率が、夏ごろではなく1年の後半の秋から冬にかけて集中しているとのこと。その中でも早く進路を決めなければいけないという、高校3年生の方々の焦りから勢いで学校を決めてしまうという危険性が見えてきました。対策でも挙げられていましたが、募集イベントの内容の強化や入学検討者の方との話し合いが大切だと感じました。また、新設学科について一般公募という形で教える立場である先生がより良い教育のために積極的に動いてくださっているという、熱い思いを持った先生が多くいるというのは学生としては非常にありがたいことだと日々感じております。

【(在学生) 森様】

日本電子専門学校がすごく素晴らしい取り組みをしていることがわかり、在校生としても嬉しい限りです。このような取り組みや成果を在校生にも広めていっても良いと思っております。また、高等学校などと連携されていますので高校生にもアンケートを取り、新設学科についてだけではなく教育の質の向上にも役立てるべきではないかと思えます。

【(在学生) 武藤様】

まずキャリア教育のお話についてですが、私自身学生自治会をしていて社会人基礎力の向上にキャリアセンターの先生といろいろと話をしながら進めることができているので、今後私が卒業してからも、学生自治会がそういった組織で存続していけたらと思っております。今後こういった活動をしていってほしいと思っております。続いて遠隔授業の標準化の際に教員の負荷を軽減して学生と向き合う時間を増やす記載がありましたが、これは本当に学生としてやっていただきたいと思うところがあります。私の学科はあまり人数が少ないので教員との時間は取れているいと実感していますが、先ほどもあったように学科によっては40人を超えるクラスもあります。そのような学科では教員の負担を軽減して学生との向き合う時間を増やしていただけると、就職活動の際にも大きなメリットになると思えます。今後はそのような点を重点的にやっていただきたいと思っております。最後になりますが、今年度はスポーツフェスティバルが4年ぶりに開催となり私自身スポーツフェスティバルでも委員長をやりましたが、いろいろと思うところがあり、その中で多く聞いた意見が「なぜ東京ドームで開催したのだろう」という意見でした。この場でこのようなことを言うのはあまり良くないのかもしれませんが、せっかくですので言おうと思いました。東京ドームで開催するからにはそれなりの意義があるのだろうという話をいろんな学生から聞きました。今後も東京ドームで開催していくということでしたら明確な意義を全面的に出していただきたいと思っております。

【(在学生) 福田様】

普段知ることのない学生の実績や学校主体でやっていることなどを知ることができてとても素晴らしい機会でした。ドロップアウト対策が一番の問題だと感じており、教員からのサポートもですが、クラス内同士でのつながりがあまりないため、友人間

係の問題もあるのかと思いました。生徒同士の協力の場をもう少し増やしてあげたらと私は感じております。

【(在学生) 渡邊様】

先ほどお話にありました通り、ドロップアウト問題が一番印象に残っています。学習についていけないことや入学後の理想とのギャップに加え、学費の問題を抱えている人たちが多く印象があります。奨学金について改善し、お金に困っている人が減らされるとドロップアウト率も減るのかと思いました。

【(在学生) 江藤様】

お話にありました「見える化」や習熟度に合わせること、自治会などのイベントも、学生のスキルアップに合わせた活動が行われていると感じました。また、ドロップアウト問題につきましては、実際私の学科でもドロップアウトしてしまう学生も何人かおり、オープンキャンパスとの差異があるという声は耳にします。そのような改善はちゃんとやっていきたいと思えます。また自治体の活動内容がもう少し学生に広まっても良いのかと思いました。こういう活動をしているということを学生にちゃんと広めて、学生の意見を取り入れることも重要なことではないのかと思いました。

【(企業/CG・映像) CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会 篠原様】

評価委員会の皆さまからいろいろな視点でのご意見を頂戴してありがとうございます。そして日本電子専門学校からも多くの取り組み、成果の可視化、様々ことをご紹介いただきました。これを学校の体制だけではなく、カリキュラムの方にも分析を続けて反映いただきまして、校長先生もおっしゃっていたように社会産業界から望まれる人材の育成というものに続けて邁進いただければと強く感じた次第です。